

平成 27 年度 第 1 回門真市幼児教育振興検討委員会で出された主な意見

項目	主な意見等	対応案
スケジュール・骨子案	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールがタイトなため、実効性のあるものが作成できるのか心配である。 部会と策定委員会が公立だけはおかしい。 作業部会で私立の意見をどう反映させるのかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を踏まえてスケジュール及び私立の意見の反映方法について再検討する。
カリキュラムの必要性	<ul style="list-style-type: none"> これまでの間、一貫教育課程研究委員会で検討されてきた内容を、カリキュラムに反映させればよいのではないか。 幼稚園は学校であるのに、学校教育法・教育基本法に触れられてないのは問題である。 接続カリキュラムは理解できるが、「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」という表現は、就学前が小学校の準備期間との誤解を招きかねないため、避けてもらいたい。 就学前は小学校の準備期間ととらえるのではなく、育ちという点を意識して作成すべき。 本カリキュラムは、「教育力の向上を重視すべきという市民の声」から必要性を見出したのではなく、就学前教育の専門家の立場から必要性を見出したものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当課と連携を図りながら検討する。 本カリキュラムは、保育所と幼稚園、また、公立と私立の取り組みに違いがある中、認定こども園も含め、一つにまとめた就学前教育の土台づくりの意義があるため、十分な論議が必要。誤解を招かない文言で再度検討する。 接続期を、就学前から就学後という一貫した流れの中でとらえる。 カリキュラム作成の意図の一つとして、保育所が幼稚園で育てている子ども、幼稚園が保育所で育てている子どもに対してどう理解していくかを一定共有することがある。
カリキュラムの位置づけ・基本理念	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程や指導計画、月案など、カリキュラムでは、どの段階まで示すのか。理念のみを示すものとして作成するのか、現場で使える手引書、参考書になっていくものを意図しているのか。 策定委員会や作業部会で私立の意見をどう反映していくか。私立の特徴などを知った上でどうするかということが大事になる。 同じ園でも、その年の子どもの様子、保護者の状況によって変わる。教育課程の段階までのものであれば、私立も含めて作成するのは可能ではないか。 現場で各園の独自性が発揮できる幅を持っておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状示しているものは骨子であり、今後、現場で使用するものとなるように内容を盛り込み、素案を作成していく。 策定委員会や作業部会における私立も含めた現場の意見反映の方法について再検討する。 作業部会に私立保育士・教諭に参加していただき、グループワークにてカリキュラム作成を進める。 策定委員会にも、私立代表の委員に参加していただき、意見をいただく。

めざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> 「知・徳・体」の表現は、総合的な保育を実践している現場において、混乱を招くため、外すべきである。 “保育にかかわるねらいと内容”の「保育」の表現は保育所の保育との混同を招く恐れがあるため、「養護」とする方が適切ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を踏まえて、表現を再検討する。
カリキュラムの内容	<ul style="list-style-type: none"> 年齢別カリキュラムの7区分については、もう少し大きく捉えた方がよいのではないか。区分が細かくなると基本の発達段階のカリキュラムみたいになるが、それは園ごとで立てている。 「児」という言葉を外しておくとも3歳でも4歳になった子の育ちで、3歳の部分が残っていると捉えられる。3歳児と書かれていると、こうでない子は駄目となるのが怖い。 小学校への接続で、小学校でつけていこうとする力の内容・項目は教科書をもとにではなく、指導要領をもとにやっている。 支援の必要な子どもに、虐待のことだけしか書いてない。 「安全の配慮」に防災は入れないのか？交通事故、遊具の点検、けが。社会で重要とされている防災の部分がどうなるのか。園ではいろんな防災のことを小学校も含めた連携の中で、地域で共通で意識しておくというものがあってよいと思う。 地域の子育て支援としての役割のところで、子育て相談といった文言は入れないのか？ 障がい児の支援について、こども発達支援センターの役割をこのカリキュラムの中に入れるべき。小学校まで繋いでいってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では7区分で良いのではないかと考えているが、今後素案を作成する中で検討したい。 2歳までは、「おおむね」で表記し、3歳から「児」をつけてはどうか。 学習指導要領に基づいた表記にする。 「支援の必要な子ども」の項目に、門真市としてどのような内容を記述するかは、素案の中で検討する。 防災については、健康・安全の項目の中で記述する方向で検討する。 子育て相談についても触れる必要があると考えている。 こども発達支援センターは、策定委員会や作業部会に委員として入っている。0歳から18歳までの子どもを対象としているので、各園も小学校も当然のようにこども発達支援センターと連携を図っていかないといけないと考えている。